

設備投資、製造能力拡張によって、現業の高齢者福祉向け商材の開発・製造・販売において強みを更に強化して他社の追隨を許さない質・価格ともに圧倒的な差別化を図る

<長期成長ビジョン達成のポイント>

ポイント 1

高齢者施設向け冷凍弁当開発力・製造の強化

医療・福祉の給食会社としての生き立ちを持ち、給食現場運営のノウハウを以って、使い勝手の良い製品企画ができる強みを磨く。及び既存工場運営で培った開発力・製造力を最大限生かし、変動する市場の要求にタイムリーに応える体制を強化する。

ポイント 2

原料仕入から商品配送まで独自内製分野の強化

現在実施している主要原料の海外と直接貿易仕入、製造した商品の仕分けと関東・関西地区までの幹線便配送等の自社内製分野において、今後更なる物量の増加に伴い、質・コスト・スピード共に優位性を磨く。

ポイント 3

従業員への還元

自社の成長で得た利益は、積極的に従業員に還元する。賃上げだけでなく従業員(の両親)向け福祉施設の整備計画を進める事により、従業員の収入増加に加えて支出抑制の支援体制を企業として構築する。

目 標

会社全体の売上成長目標（2023～2030年度）

売上高成長率：233%

売上高増加額：+123億円

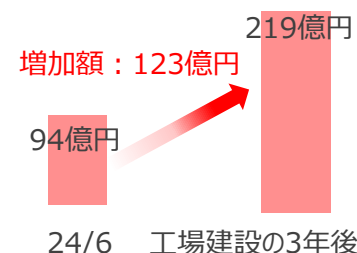
会社全体の賃上げ目標（2023～2030年度）

2.82%（直近事業年度～基準年度）

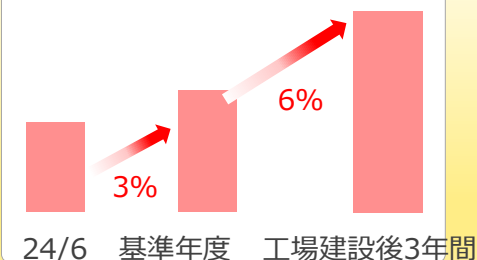
5.92%※従業員数の増加要因除き:9.66%
（基準年度～事業化報告3年目）

⇒従業員 6.00%、役員6.00%

売上成長目標（～2030年度）



会社全体の賃上げ目標



今年はまさに10年以上前から宣伝されてきた2025年問題の真っ只中 「4人に1人が高齢者」となった時代に必要とされる食事サービスを提供したい

外発的動機

➤ 人件費高騰、人手不足による医療・福祉給食運営費の負担増

- ・ 医療・福祉の厨房現場における調理員の人件費負担が年々増加している。100床未満の病院では給食提供コストが公定価格を上回っており赤字運営の病院が多数発生している。
- ・ 既存の自前調理や委託会社による給食運営によりコストを抑えた、安全な給食提供の仕組みの必要性が顕在化している。

➤ 病院・施設厨房現場の人手不足

- ・ 一日三食365日現場の医療・福祉の厨房では人手不足が深刻化し、給食の質の向上以前に明日の給食の提供に不安を抱いている現場が多い。厨房の省人化、無人化の仕組みの構築が急がれる。

➤ 高齢化の進行に伴い、高齢者施設のみならず、在宅高齢者への食の安定供給の必要性拡大

- ・ 現在、在宅高齢者向けの弁当配食企業も店舗運営の人材難に直面しており、業績が頭打ち気味の傾向である。ネット通販を始めとした、運送企業の配送機能を活用した冷凍弁当の供給の市場が拡大する傾向が顕在化している。

➤ 病院向けの給食は治療食対応が複雑で院外からの提供は困難

- ・ 医療施設に向けて、日々変動する入院患者に応じた治療食中心の給食を外部から共有する事は困難であり、委託金額が高騰した現在でもなお、給食会社への委託率が高い。自前調理が無理な場合、委託会社への給食委託以外に選択肢がない。

内発的動機

➤ 冷凍弁当ビジネスの黄金期に向けて体制を備える

- ・ 現在の当社の主力商品であるパック商品は、ユーザーは調理不要で、加熱後お皿に盛りつけて提供する。高齢者施設厨房では、盛付の人員確保まで困難になる傾向があり、徐々に容器に盛りつけられた冷凍弁当の需要の高まりを感じている。
- ・ 当社は現在1日15万食の製造実績と、ミキサー食、ムース食等様々な形態の食事に対応できる技術を有しているが、現状の工場では冷凍弁当製造力は限定的である。今後の冷凍弁当の需要の高まりに備えて開発力と製造能力を強化したい。

➤ 新事業軸の創設と幅広い消費者への商品提供

- ・ 現在、当社工場製造部門では高齢者福祉施設向けの事業が主軸となっているが、新たな事業軸の創設を計画している。今後病院向け市場（推測：約7500億円/約1,500,000床/年）に向けて療養食冷凍弁当販売にチャレンジしたい。
- ・ 日々変動する入院患者に応じた治療食を外部から供給する事は困難で同業者も手をこまねている分野ではあるが、既に当社は複数の大型急性期病院に冷凍弁当（常食、嚥下対応食）を提供している実績を有している。
- ・ 今後、新工場において治療食冷凍弁当の開発に着手し、各病院で多額のコスト（人件費、光熱費）を支出している病院内調理業務の代替能力を有して病院経営の効率化に貢献していく。

原料保管能力・製造能力・製造機能・商品仕分け能力・製品保管能力を向上させ効率を上げる
既存事業の拡大により従業員への賃上げを実現し、更に新規事業へのステップアップを図る

補助事業の
背景・目的

- 今後需要が伸びる冷凍弁当事業の拡大と業務効率化による事業拡大を目指す。

事業費
(補助額)

82億円
(21億円)

設備投資の
内容

- 冷凍弁当専用工場として、岡山県笠岡市に工場を新設。更なる増産でコスト効率化と事業拡大を目指す。
- 新たに米飯・玉子商品製造を開始し、エンドユーザーでの利便性向上とたんぱく質摂取強化等、新たな付加価値を生み出す。
- 自動倉庫導入により原料・製品の冷凍保管能力を大幅拡大し、入出荷業務と国内物流コストを効率化する。

- 【主な設備投資内容】(税抜)
- 工場建屋：44.07億円
- 自動倉庫：3.0億円
- ピッキング設備：1.2億円
- ※そのほか製造設備を多数導入。

補助事業イメージ



目標値

項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度 + 3 年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	416万円	660万円 (年平均上昇率 + 16.7%)
従業員1人あたり給与と支給総額 (単位：万円/人)	314万円	374万円 (年平均上昇率 + 6.0%)
役員 1 人あたり給与と支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均成長率 + 6.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	685人	795人